

□■受験対策ミニ講座 3号 2019□■

10月に入り、過ごしやすい季節となりました。出遅れているあなたも、まだまだ間に合います。ここから本気でスタートしましょう。前は「ソーシャルワークの源流」をとりあげましたが、今回は「グローバル定義 2014」です。年表でいうと右端にあたり、「源流」からは100年余りの時が経っています。

【31回 92 相談援助の基盤と専門職】

「ソーシャルワークのグローバル定義」(2014年)に関する次の記述のうち、適切なものを二つ選びなさい。

- 1 定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい。
- 2 中核となる原理の一つに画一性の尊重がある。
- 3 セラピーやカウンセリングを含めず実践する。
- 4 複数の学問分野をまたぎ、その境界を超えていく。
- 5 経済成長が社会開発の前提条件になるとされている。

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【“変わりゆく”定義】

2000年、国際ソーシャルワーカー連盟は「ソーシャルワークの定義」を発表しました。これに対してアジア・アフリカ諸国などのワーカーから、「欧米先進国中心だ」「グローバル化や経済格差に対応していない」「先住民の価値観が無視されている」などの意見が出されました。議論が重ねられた末に採択されたのが「グローバル定義 2014」です。2000年の定義にはなかった、社会的結束、集団的責任、多様性尊重、地域・民族の固有の知などの言葉に注目してください。

「定義」は数行ですが、続く「注釈」では、中核となる任務/原則/知/実践の4点にわたって詳しい説明があります。「原則」では「共同体の中で互恵的な関係を確立することの重要性」を強調し、多様性の尊重について述べ、「性的マイノリティの権利」にも触れています。「知」では、「西洋の諸理論だけでなく、先住民を含めた諸民族固有の知」を強調しています。「先住民たちの声に耳を傾け、学ぶことによって西洋の歴史的な科学的植民地主義と覇権を是正しようとする」と述べており、これまでのソーシャルワークの価値観の転換を迫るもののように思いますが、みなさんはグローバル定義をどう読みますか？

グローバル定義は4回連続の出題で、「注釈」の内容も選択肢の中に登場しています。「注釈」を読むと、世界のソーシャルワーカー達の議論の内容がかなり理解できると思います。「注釈」の全文は「受講の手引き」に収録しています。必ず目を通しておいてください。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【31回 92：解説と正解】

「二つ選べ」を見落としましたか？2000年の定義と2014年の定義を読み比べて、引き継がれていることと新しくなったところを理解しておく、さらに実力がUPします。

1o

2x 「中核となる原理」は「社会正義、人権、集団的責任および多様性尊重」とされています。

3x 「セラピー、カウンセリング、グループワーク・コミュニティワーク、政策立案や分析、アドボカシーや政治的介入など広範囲に及ぶ」とされています。

4o

5x 「経済成長こそが社会開発の前提条件であるという従来の考え方には賛同しない」とされています。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus